

漁況情報

【4月2日】西湘地区・大型定置網：ブリ豊漁

4月2日、小田原市の米神漁場と石橋漁場の定置網で約4,500本のブリ(銘柄「ぶり」・「わらさ」、平均7kg/本)が水揚げされました。また、同日には真鶴沖網漁場の定置網でも約2,000本の「ぶり」・「わらさ」が水揚げされるなど、西湘地区の大型定置網でブリが豊漁となりました。3月中旬以降、同地区では1,000本を超えるブリの水揚げが複数回見られており、この様子は多くのメディアでも取り上げられました。



小田原魚市場に水揚げされたブリ

浜の話題

【3月5日】小田原：かながわブランド「小田原あんこう」

3月5日、小田原市漁協刺網部会の「小田原あんこう」が新たなかながわブランドとして登録されました。3月22日には、黒岩知事より記者発表がありました。漁場が近く、生きたまま水揚げされるため、鮮度の高さが売りです。市内の鮮魚店などで5月下旬頃まで購入できます。

記者発表資料 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/vw7/prs/r3090742.html>



刺網にかかったあんこう



網から外されたあんこう

【3月11日】三浦（城ヶ島）：アワビ種苗標識付け

3月11日、三和漁協城ヶ島地区の漁業者が、資源管理協定に基づき資源の回復を図るための放流に備えてアワビ種苗に標識付けしました。稚貝の殻に色付けする作業を、漁業者は手際よく行っていました。標識付けされたアワビは、3月18日に地先の海へ放たれました。



標識付け作業と印の付いたアワビ種苗

【3月14日】真鶴：漁業体験研修

3月14日、県水産課主催の就業希望者を対象とした漁業体験研修が真鶴沖網漁場で行われました。参加者は漁場に着くと網に入った魚が水揚げされていく様子を興味深そうに見学していました。また、水揚げと選別作業後には漁業者や漁協職員と意見交換を行い、定置網漁業についての理解を深めていました。



網締め作業を見学する様子



陸作業の説明を受ける参加者

【3月16日】平塚：ワカメ収穫体験イベント

3月16日、平塚市漁協は、同漁協の「ブルーカーボンチャレンジ」で養殖したワカメを市民参加の収穫体験イベントに提供しました。同イベントは、着地型観光推進委員会(平塚市観光協会内)が主催し、同漁協の取組みを学び、平塚の海の魅力を世界に発信したそうです。

【3月18日】三浦（小網代）：養殖試験マガキ測定

3月18日、みうら漁協小網代地区の漁業者が取り組んでいる養殖試験の一環で、マガキの測定を行いました。試験開始時に平均で殻長60mm 体重20gだった種苗が、104日の経過で同じく殻長105mm 体重101gになっていました。成長を確認した漁業者たちからは「どんどん身入りもよくなってほしい。」との声が聞かれました。



大きく育ったマガキ

【3月19日】 逗子（小坪）：ワカメ種付け

3月19日、小坪漁協所属の漁業者が早ワカメの種付けを実施しました。水温が低かったため、沸かした海水を混ぜて種付け用の水槽の水温を19℃まで上昇させたところ、メカブからの遊走子の放出状況も良く、濃い目に種付けできました。当日は、これからワカメ種苗生産に取り組む、横須賀市東部漁協走水支所所属漁業者と同支所職員が視察され、ワカメの種付けと種苗育成・管理、育成小屋に必要な条件等について、普及員が説明しました。

【3月19日】 茅ヶ崎：はまぐりモニタリング調査

3月19日、茅ヶ崎市漁協は、はまぐりのモニタリング調査を実施しました。茅ヶ崎市沿岸の西部海域は、東部海域と比べはまぐりの分布量が少なく、現状では漁場の価値が低い海域ですが、昨年からの種苗放流を行い、放流を継続することで漁場の価値が向上するか試験をしています。